

平成30年度第1回北海道子どもの未来づくり審議会 子ども部会 議事概要

【日 時】 平成30年8月9日（木）10:00～16:00

【場 所】 第二水産ビル4F会議室

【出席者】 別添「出席者名簿」のとおり

【議 題】 別添「次第」のとおり

【議 事】 以下のとおり

(1) オリエンテーション

- ・事務局より、日程・注意事項などの説明

(2) 知事と子ども部会委員の名刺交換及び知事挨拶

(3) 記念撮影

(4) 野村部会長と子ども部会委員の名刺交換及び部会長挨拶

(5) 子ども部会委員自己紹介（17名）

(6) 副部会長の選出

- ・立候補により元岡委員を選出

(7) 事前講義（北海道の少子化の現状や人口減少について） 子ども子育て支援課 千葉主査

(8) グループ討議

- ・3グループに分かれて「私たちが考える北海道の未来」というテーマで議論

(9) 中間発表

【Aグループ】

- ・ 経済面、結婚観、仕事面が充実した町を考えた。子どもを育てるのに、教育費や医療費がかかったり、結婚したりすると色々なお金がかかる。それを解決するため、育児休暇に入ると、もらえる祝い金、医療費・教育費の無料などが考えられる。標津町では、教科書や制服が町から支給されたり、出産祝い金が給付されたりしている。それを北海道全体でもできるようにすると良い。
- ・ 結婚観では、結婚に消極的になっている、1人の時間が欲しい、出会いがないなどがある。解決策は今まで結婚してきた人の結婚談を聞くこと、婚活サイトを発展させるなどが考えられる。
- ・ 仕事面では、仕事がしたい、復職が難しい、共働き社会になっている、育児休暇後の制度、仕事と子育ての両立などの課題がある。それを解決するために、男女平等にしたり、育休後の職場復帰が約束されたり、子どもがいる人に休み等を優先したり、会社に子どもを預けられる場所ができたりしたら少子化が解決されて、北海道がもっと子どもで溢れるようになると思う。

【Bグループ】

- ・ 私たちは、理想の北海道というテーマで4つに絞り考えた。
- ・ 「①子どもを育てやすい環境」では、病院を作る、医療費、助成金などが挙げられる。生まれる子どもが増えるたびにもらえる金額を増やしたら良いのではないか。医療費が無料であれば、子どもを育てやすいのではないか。若い人たちにも情報発信したいので、YouTubeの広告やスマホの広告などで

目に付くようにしたら良いのではないか。

- ・ 「②北海道から出て行く人を減らす」では、地方に大学を沢山作る、企業を誘致することが考えられる。赤ちゃんを生み育てたりしやすい環境づくり、病院を建てるなどしたら良いのではないか。
- ・ 「③子どもと触れあう場を作る」では、祭りで交流の場を増やしたり、家庭科の授業で保育園や小学校に行ったりすることで子どもと接する場を増やせると良い。あまり保育園児と関わる機会がないので、子どもが怖いといった意識を持っている人も最近が多い。家庭科の授業などで半年に一回保育園や小学校に行けたら、そういう意識改革をしていけるのではないか。
- ・ 「④待機児童を解消」では、保育士が不足しているという意見から、忙しいイメージがあり、なり手が減っているのではないかという話があったので、賃金を上げることが改善に繋がると思った。保育所不足については、教職員の託児所を学校に作るなどすると良い。

【Cグループ】

- ・ 「私たちが考える子育てがしやすいまち、活気があるまち」というテーマで考えた。
- ・ 子育てにかかる金銭的な負担が大きいことから、医療費や保育料の無償化などの意見が挙げられた。
- ・ 出産については、無痛分娩などいろんな出産の仕方があると認知してもらうことが大事だという意見や、お医者さんになっていただく課題なので難しいが、近くに産婦人科がない、もっと産婦人科を増やしたいという意見もあった。
- ・ 「親から見た子育ての環境」では、子どもを産んだ後の制度やサポートをもっと増やすべきという意見が挙がった。LINEや電話を使えば、もっと気軽に育児の不安を相談できるのではないか。
- ・ 「子どもから見た子育ての環境」では、海や川で遊べたり、公園で他の人と接したりすると良い。もっと市町村が積極的に体育大会のようなものを開いてはどうか、子ども同士のふれあいもできるだろう、まずは自然にふれあって欲しいという意見が出た。子どもを産んで子育ての楽しさが分かったというのもあり、もっと子どもと触れあう機会が欲しいという意見もあった。
- ・ 理想のまちとしては、大きい会社があればそこに勤めている人たちが、移住してくる。人口を増やし、活気をつける。

(10) まとめ（野村部会長）

- ・ 北海道から出て行く人を減らす、子どもと触れあう場を作る、待機児童の解消をするなど、すぐ施策になりそうな提案や、斬新な意見や提案もあった。
- ・ 産んでからのサポートや経済的なサポートにも言及されており、無痛分娩など新たな視点もあった。
- ・ 昔は身体の都合で無痛分娩（帝王切開）した際に、「ちゃんと産んでいないのダメだよ」と言われることもあった。少子化をどうするかという大きな課題を考えるには、そういう少し違った角度からのアプローチもあり、意識を変えていくというのが重要な対応策の1つ。
- ・ 住んでいるまちで今回挙げた課題に対応する取組がなされているのか、次回までに調べてほしい。
- ・ 情報発信の対応策として、先程YouTube広告が挙げられたが、自分のまちがどうなっているのか、もしあればどうして知られていないのか、その理由も考えると、第2回の協議が深まってくる。

(11) 閉会